

新任副院長あいさつ

副院長 西口富三



平素より大変お世話になっています。この度、副院長の職を拝命いたしました。微力ではありますが、静岡県立こども病院ならびに地域医療の発展に努めてまいりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

さて、私は、平成19年、静岡県立こども病院に周産期センターが開設されるにあたり、浜松医科大学から赴任いたしました。翌20年12月には総合周産期母子医療センターの指定を受け、現在に至っています。時間の経つのは早いもので、来年には開設10周年の節目を迎えます。皆様方のご支援の賜物であり、深謝申し上げます。

現在、全国ほとんどのこども病院には産科部門が併設されていますが、これはここ10数年来のことです。その最大のメリットは、胎児期から新生児期にかけての一貫した医療体制が構築できることにあります。”fetus as a patient”まさに、胎児期からの対応が周産期予後の見地から極めて重要ということにつきます。特に、静岡県立こども病院は、小児循環器、小児心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、等、全国でも屈指の高度医療水準を有しており、県内はもとより、全国から多くの症例が集まっていることは大変嬉しい限りです。



私が赴任するにあたり目標に掲げたことは、超未熟児出生の減少です。決して容易なものではありませんが、最近ようやくその成果がみえてきました。地域との顔のみえる連携の賜物といえます。気候条件にも恵まれ、街にも活気が溢れている此処、静岡の地において、地域医療水準の向上をさらに目指して努力していきたいと思えます。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

news

新カテーテルで不整脈冷凍切除

今年4月に保険適用となった、不整脈の治療法の一つ「カテーテル心筋冷凍焼灼術」のためのカテーテルを使用した「発作性上室頻拍」の根治的手術を国内で始めて実施、成功しました。

これまでの主要な治療法だった熱を加えて組織を破壊する「高周波切除法」に比べて周囲の組織を破壊する可能性が低く、再発率も低いのが特徴で、術者と患者にとって、よりリスクの少ない手術が可能になりました。



マイナス80度で冷凍焼灼



新生児科 科長 中野 玲二



静岡県立こども病院新生児科の中野玲二と申します。前科長の田中靖彦先生の後任を4月から務めさせて頂くことになりました。私は学生のときに、新生児科医になることを決め、1996年から当院で研修医時代を過ごした後に、東京女子医科大学病院と愛育病院のNICUで新生児科医として働いてきました。2013年から、再び当院のNICUで働く機会を頂きました。私が研修医の頃の当院は、産科が併設されておらず、NICUに入院するすべての赤ちゃん達は救急車で搬送されて入院となりました。現在、当院NICUに入院する殆どの早産児は、当院の産科で生まれております。生後

早期から母親が父親と一緒に赤ちゃんに会えることは、今では当たり前になっていますが、県内の多くの周産期施設との連携があってこそ実現できることであり、静岡県内の周産期医療施設の皆様に改めて感謝の意を申し上げます。

現在、当院の新生児センターは、NICU18床 GCU18床で運営されており、早産児以外にも、さまざまな先天性疾患を罹患している赤ちゃんが入院しております。新生児科スタッフ医師は11名です。さまざまな施設からも小児科医が当院NICUへ短期研修に来ています。日頃から丁寧な議論を積み重ねることで、成熟したチームワークを築き、赤ちゃんと御家族のためのさまざまなチャレンジを進めています。



NICU (新生児特定集中治療室)

周産期医療にとって最も大切なことは地域化です。地域化とは、「総合周産期母子医療センターを中心として、経済的・社会的・医学的観点から、地域の周産期医療のシステム化を図ること」を言いますが、教育的な観点からも地域化を図ることが、周産期医療の向上を持続可能なものにするためには必要です。今後、出生前訪問、ベッドサイド臨床、ファミリーケア、NICU退院児のフォローアップ、研究活動などを通して、周産期医療の魅力を伝え、一人でも多くの新生児科医のキャリア形成支援に身を捧げていくことで、静岡県の周産期医療に少しでも貢献したいと思っております。今後とも、よろしくお願いいたします。

病理診断科 科長 岩淵 英人



病理診断科に今年度より科長として赴任いたしました、岩淵英人と申します。平成10年名古屋大学医学部卒で、当初小児科医として臨床の場に携わっていましたが、その後病理医の道をすすみ、現在は、小児疾患を専門とした病理医として日々がんばっております。

病理医は直接患者さんとお会いすることはありませんが、患者さんから提出していただいた臓器や組織を調べ、病気の診断や病態についての情報を臨床の先生方に提供することで、共に診療に携わっています。通常の顕微鏡による検索に加え、電子顕微鏡による検索や遺伝子学的な検査なども行っています。小児の疾患は、大人の疾患と比較すると特殊なものやまれなものが多く、これに携わる医療従事者側にはかなりの専門性や特殊性が要求されます。臨床の先生方と協力して、小児疾患を専門とする病理医として微力ながら

がんばっていきたいと思っております。また、昨今は技術の進歩が早く、とくに遺伝子関連の新しい検査技術がどんどん開発されています。今までと異なり、特殊な検査をしないと、正確な診断ができない疾患も増えてきています。これらの時代の流れに遅れないよう、患者さんのお役に立てる有用な技術は、可能な限り導入していけるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



地域医療連携 Q & A

地域医療支援病院である当院は、日頃から、地域の開業医や保健機関等から多くの様々な医療相談を受け付けています。このコーナーでは、そうした相談の中から、よくある質問と回答を紹介いたします。

産科の検査について

【質問】

新型出生前診断(NIPT)や羊水検査とはどのようなものですか？



【回答】

出生前診断として新型出生前診断(NIPT)が注目されています。その対象は、高齢妊娠や染色体異常児の妊娠既往、他の検査で異常が指摘された場合、そして夫婦に均衡転座がある場合です。

新型出生前診断(NIPT)は、母体血中に含まれる胎児由来の cell free DNA を次世代シーケンサーで網羅的にシーケンスし DNA 断片の由来を同定することによって、染色体の数的異常について知ることができる方法です。非常に高い感度や特異度をもっていますが、陽性結果が出た場合、確定診断のためには羊水検査が必要です。現在、静岡県内では NIPT の実施施設はありません。

羊水検査には FISH 法と G-banding があります。FISH 法は、13番、18番、21番、性染色体の数的異常を検出する事ができ、数日から1週間程度で結果が出ます。一方、G-banding では細胞を培養する必要があり、約3週間かかりますが、染色体の数的異常だけでなく欠失や転座などの構造異常を同定することが可能です。検査は妊娠15~18週で実施されますが侵襲的方法であり、0.3-0.5%程度で流産等の合併症が起きるリスクを有しています。

先天異常は全分娩の3-5%に見られ、そのうち染色体異常によるものは3~4割程度だと言われています。つまり、染色体検査で正常であっても、全ての胎児異常を否定できるものではありません。それぞれの検査の特性などを理解した上で、病態に応じた検査が選択される必要があります。

(周産期センター 加茂亜希)

news

吉田名誉院長が叙勲・瑞宝小綬章を受章しました

地方自治や社会福祉などへの功績をたたえる春の叙勲が平成28年4月29日付けで発令され、当院の前院長である吉田名誉院長が叙勲・瑞宝小綬章を受章されました。

吉田先生は、昭和59年10月から平成23年9月まで静岡県立こども病院に在任し、感染免疫アレルギー科において診療に従事するとともに指導相談室長、第1診療部長、副院長、院長等の要職を歴任しました。

院長在任中には小児専門の医療機関としての役割を果たし地域の小児救急医療に貢献するため、静岡市の二次救急輪番制へ参加したほか、薬剤の院外処方、診断群分類による診療報酬の包括支払制度(DPC)への移行、電子カルテシステムの導入など、医療を取り巻く環境のめまぐるしい変化にも迅速かつ確に対処し、また、平成19年には新外科病棟を開設、基本計画の段階から陣頭指揮して周産期センター、循環器センター、小児集中治療センターなどの高度医療機能を築き上げるなどして、「地域の小児医療水準の向上」に大きく寄与しました。



吉田名誉院長



***** 組織改正・人事異動情報 *****

●診療部・診療科の名称変更

平成28年度の組織改正により、次のとおり、診療部名・診療科名（院内標榜）を見直しました。

臨床病理科 → 病理診断科

●人事異動

平成28年度の人事異動により、表1のとおり、職員の採用・退職・転入・転出がありました。8月1日現在の主要な医師は、表2のとおりです。

表1 職種別人事異動一覧

3/31、4/1現在

職種	退職	転出	採用	転入
医師	13	0	8	0
看護師	16	5	28	5
コメディカル	3	2	0	4
事務	0	5	0	6

表2 役職別主要医師一覧（診療科長以上）注：「*」は兼務を示す。

H28.8.1現在

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
院長	瀬戸 嗣郎	血液腫瘍科	渡邊 健一郎	麻酔科	奥山 克己
副院長	坂本 喜三郎	血液凝固科	堀越 泰雄*	病理診断科	岩淵 英人
副院長	朴 修三	遺伝染色体科	石切山 敏	発達小児科	溝渕 雅巳
副院長	西口 富三	内分泌代謝科	上松 あゆ美	こころの診療科	山崎 透*
情報管理部長	河村 秀樹	腎臓内科	和田 尚弘*	【室長】	
内科系診療部長	和田 尚弘	免疫・アレルギー科	木村 光明*	医療安全管理室	田中 靖彦*
外科系診療部長	漆原 直人	神経科	渡邊 誠司	感染対策室	木村 光明*
こころの診療部長	山崎 透	循環器科	田中 靖彦*	チーム医療推進室	奥山 克己*
診療支援部長	木村 光明	小児集中治療科	川崎 達也*	地域医療連携室	和田 尚弘*
【センター長】		皮膚科	—	小児がん相談室	渡邊 健一郎*
周産期センター	西口 富三	放射線科	—	臨床研究室	渡邊 健一郎*
新生児センター	中野 玲二	臨床検査科	河村 秀樹*	治験管理室	田代 弦*
循環器センター	坂本 喜三郎*	小児外科	漆原 直人*	国際交流室	坂本 喜三郎*
小児集中治療センター	川崎 達也	心臓血管外科	坂本 喜三郎*	ボランティア活動支援室	上松 あゆ美*
小児救急センター	唐木 克二	循環器集中治療科	大崎 真樹	診療情報管理室	河村 秀樹*
予防接種センター	木村 光明*	脳神経外科	田代 弦	ITシステム管理室	河村 秀樹*
こころの診療セク	山崎 透*	整形外科	滝川 一晴	輸血管理室	堀越 泰雄*
医師研修推進セク	和田 尚弘*	形成外科	朴 修三*	臨床工学室	大崎 真樹*
【診療科長】		眼科	—	成育支援室	堀越 泰雄*
総合診療科	関根 裕司	耳鼻いんこう科	橋本 亜矢子	リハビリテーション室	滝川 一晴*
小児感染症科	莊司 貴代	泌尿器科	濱野 敦	心理療教室	山崎 透*
小児救急科	唐木 克二*	産科	西口 富三*	栄養管理室	渡邊 誠司*
新生児科	中野 玲二*	歯科	加藤 光剛		

読者からの投稿を受け付けています

小児医療や当院に関する意見、質問をお寄せください。住所、氏名、年齢、電話番号を明記、あて先は、〒420-8660 静岡県立こども病院医療サービス課「ひろば読者投稿」係(FAX:054-247-6259、MAIL:kodomo-keiei@shizuoka-pho.jp)。原則として200字以内でお願いします。